

[第676回 ラジオ大阪番組審議会議事録]

1. 開催日時 令和7年4月9日(水) 午後2時00分～3時00分

2. 開催場所 ラジオ大阪 大会議室

3. 委員の出欠 委員の総数 6名

出席の総数 6名

出席委員の氏名 成瀬 國晴 河内 厚郎
鳴海 勝 岸本 佳子
たつみ 都志 (書面参加)
鎌田 雅子 (書面参加)

放送事業者側出席者の氏名

吉野 達也 上野 慶子
志知 直哉

4. 議題

1) 番組審議 『ラジオ大阪 防災スペシャル「明日のために、今できること。」』

2) その他

5. 議事の概要

議題1) 『ラジオ大阪 防災スペシャル「明日のために、今できること。」』について、番組の企画意図と内容を説明し、審議に入った。

社側 ラジオ大阪では防災情報を発信する「防災ラジオステーション」の取り組みとして、防災スペシャル「明日のために、今できること。」を、東日本大震災から14年となる3月11日(火)の朝7時から夕方4時55分までのワイド番組で放送しました。それぞれの番組の中で、防災・減災の情報とともに、福島、宮城、岩手などの東北の復興の現状、そして今だからこそ伝えたい現地の魅力、観光、食、文化などお伝えしました。ニュースでござる「ニュース真剣勝負」のコーナーでは、元・産経新聞編集長、安本寿

久さんが「東日本大震災 14年 復興ツーリズムに学ぶ阪神」をテーマにお話いただきました。みみよりだんご「みみだんジャーナル！」のコーナーでは、福島県住みます芸人のぺんぎんナッツさんと電話を繋ぎ、震災後に移住したお二人に当時の町の様子や福島での活動について伺いました。笑えば大吉では、原田年晴アナウンサーをスタジオにむかえ、福島県の特産品「川俣シャモ」を紹介。また生産者の方にも電話を繋ぎ、その魅力をお伝えしました。今回は3/11（火）「防災スペシャル」として放送した、以上の3つのコーナーを聴いていただきます。

- トラック1：ニュースでござる「ニュース真剣勝負」コーナー 15分
元・産経新聞編集長・安本寿久さん「復興ツーリズムに学ぶ阪神」について
- トラック2：みみよりだんご「みみだんジャーナル」コーナー 27分
福島県住みます芸人・ぺんぎんナッツさん 電話繋ぎ
- トラック3：笑えば大吉 原田年晴アナウンサー参加 15分
福島県の特産品「川俣シャモ」を紹介。また生産者の方にも電話を繋ぐ。

委員 ニュース真剣勝負の「復興ツーリズムに学ぶ阪神」では、安本寿久さんの「阪神淡路大震災と東北の震災」の比較は分かりやすかった。また東日本大震災では、小学生が普段の訓練通りに「早く高台逃げる」という教えを守り、大人になったら忘れていて、というのもし身につまされる。「犠牲を経験として学ぶ」というフレーズは至極名言である。＜トラック3＞の川俣シャモの成長が、背景の鶏舎での鳴き声で実感として伝わってきた。ラジオならではの効果だと思う。

委員 釜石市の「津波てんでんこ」の話は刺さった。子供たちには家族を考えるより、個々で助かることを教えなければならないと強く思った。震災当時は原発事故で大変だったが、今はどうなっているのか。現状を具体的に知りたいと思った。個人的には、今後起こるといわれている南海トラフ地震のことについて取り上げてもらえると、今何をすべきなのか、より危機意識を持てるのかなと思う。災害時におけるラジオの役割は大きなものがある。そういう意味でも、このような防災番組を定期的にすることは大変意義のあるものであり、この後も続けていかなくてはならないと強く思う。

委員 阪神と東日本、それぞれの防災ツーリズムに関する取り組みの紹介は、とても示唆に富んでいた。「防災教育」などととともに、日本が災害から学んだ、大切な財産だと思う。メディアでもそれほど頻繁には取り上げられない話題だけに、今後も私たちが伝えていかなくては、と思った。和田アナウンサーは、進行役として、2人の発言に上手にさりげなく言葉を補っ

たり、軌道修正したりと、聴取者にストレスをかけない気配りをしていた。また、とても聞きやすい声で、さすがプロだと感心した。

委員 防災ラジオステーションは、災害の記憶を風化させない取り組みで大変よいことだと思う。自身を振り返っても記憶は薄れてきており、このような繰り返しの啓蒙活動が必要だと感じた。今回紹介していた兵庫県の防災ツーリズムは、阪神淡路大震災の経験を子供たちに伝えることで、防災意識を高めるよい取り組みだと思う。芸人のぺんぎんナッツさんが震災以降にあえて福島に移住することは、ご本人にとって非常に勇気のある決断であった。被災地でのお笑い活動は賛否両論あると思うが、震災で人々が大変な時こそ笑いが必要なのかなと感じた。

委員 今回、藤川さんは聞き手に徹して、安本さんの独壇場であった。具体的でわかりやすくおもしろかった。例えば、救助を求めている人がいれば素手では無理で軍手が必要ということで、言われてみて初めて気がつき非常によいレポートであった。東日本大震災で印象に残っているのは、「津波てんでんこ」だ。これは何度聞いても大事なことだ。

委員 安本さんは落ち着きがあり、体験者として、そして客観的にみて表現者としての力がある。安本さんの貴重な体験は説得力があり、我々に役立つ話でよかった。「津波てんでんこ」は昔学校で習った。私の世代は国語の教科書で「稲むらの火」として習った。同じように今の世代は「津波てんでんこ」で教わっている。ラジオで繰り返し伝えていくことで「稲むらの火」「津波てんでんこ」として次の世代まで続いていくことが大切だと感じた。「川俣シャモ」については、ラジオならば地名の漢字の説明があった方がいいと思う。

社側 貴重なご意見、ありがとうございました。

以上

6. 審議会の答申又は改善意見に対してとった措置および年月日

なし

7. 審議会の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表内容・方法及び年月日

- ・ 「番組審議会だより」 （第676回ラジオ大阪番組審議会議事録の要約）

「ラジオ大阪番組審議会レポート」 内で放送

放送日 令和7年5月18日（日）6時10分～6時15分

- ・ 「番組審議会だより」 （第676回ラジオ大阪番組審議会議事録）
ラジオ大阪ホームページ (<http://www.obc1314.co.jp>) に掲載
- ・ 番組審議会の議事録の原本は事務局立ち会いのもと閲覧に応じる。

8. その他の参考事項

訂正放送または取り消しの放送の請求及び請求に対しての措置が無い旨を報告。

以上